

# 四十七年前に彫られた 飯縄大権現像

法務課 堀江承豊

高尾山では来月に、新たに造立された御前立御本尊の開眼法要が、大本堂にて執行されます。この御前立御本尊とは別に、三メートル近くもある飯縄大権現像と大天狗像、小天狗像が、昭和四十三年から御本社の飯縄権現堂に祀られています。

昨年の十月初めに一人の女性が薬王院の寺務所に訪れ、「四十七年前に祖父（油井外熊氏）の彫った飯縄大権現像が、薬王院のどこかの御堂に安置されていて、高尾山の御堂に祀られている姿は



製作中の油井外熊氏

一度もみたことのない八十歳になる父（油井孝裕氏）に、是非とも見せてあげたい。」と話されました。

一週間後に家族四人で来山され、通常は一般公開されていない飯縄大権現像を拝観されましたところ、皆様は涙を浮かべて合掌されていました。四十七年前に自分の父親の彫った飯縄大権現像と対面された油井孝裕氏は、父親が精魂こめて作った一人て彫っていた姿を思い浮かべ続け、拝観できる日を夢見ていたに違いない。

ありませぬ。参拝後大山御貫首と面会され、昔の思い出を親しく話されています。ところで、

この飯縄大権現像と大小天狗像は、昭和四十三年本社改修の際、本殿にある御本尊様の御前立であった飯縄大権現像が本堂に遷座することになったため、その代わりとして先代山本秀順御貫首が油井外熊氏に制作を依頼したものです。

油井外熊氏は明治三十七年（一九〇四）長野県南佐久郡南牧村（現小梅町）に生まれ、長野善光寺の山門にある高村光雲作の「仁王像」「三面大黒像」「三宝荒神像」などに大いに感銘を受けたのがきっかけで木彫家を志し、爾来研鑽を積み多くの弟子を育て上げられ、高名な木彫家として活躍されていきました。昭和三十年青梅線日向和田駅前の臍饅頭本舗の社長から依頼された慈悲の眼差しを混えた観音像を、縁あって前貫首がご覧になり、その素晴らしさに心を打たれて、御前立御本尊像の制作を依頼したそうです。

材料は、屋久島の楠の太木が使われ、ご自宅の庭に筵掛の小屋を建て、足かけ四年（外熊氏六十二歳〜六十六歳）の歳月を掛けて制作されました。御前立御本尊は、高尾山



高尾山に納入直前の高さ三メートル近くの飯縄大権現像と脇侍の大小天狗像

に運ばれ大師堂で最後の仕上げがなされましたが、楠の香気「カンフル」（樟脳）が堂外にまで漂っていたそうです。昭和四十三年九月三十日早朝、御本尊は新しく

共に、いつまでも私たちが守護してくださることでしょう。

南無飯縄大権現  
南無大天狗・小天狗  
合掌  
（法務部長）

## 高尾山御本尊御前立奉納者御芳名

三月二十一日までの奉納者（順不同・敬称略）

伊勢崎市 内田 國一	越谷市 五戸 順子	八王子市 坂爪 とし子	富里市 森 照森
渋谷区 川村 達哉	武蔵野市 須藤 晶	京都市 芳野 香	京都市 上杉 吉男
東大和市 河原崎 猛	八代市 庄司 達弘	さいたま市 片男波 良二	さいたま市 舩生 京
新宿区 小高 博之	さいたま市 村田 保男	茅野市 原 光男	茅野市 田島 和穂
東村山市 神谷 益次	板橋区 大櫛 輝雄	伊勢崎市 田島 和穂	宇都宮市 山崎 雅子
鹿児島市 木之下 悦夫	高崎市 櫻井 境	相模原市 佐藤 久	相模原市 鈴木 美夫
市橋 めぐみ	藤岡市 中島 サチエ	和光市 鈴木 美夫	和光市 鈴木 美夫
市橋 満	日野市 三浦 正	練馬区 小林 ナオ江	練馬区 小林 ナオ江
鴻巣市 島田 登美子	横浜市 浅尾 涼子	草加市 中村 好生	草加市 中村 好生
杉並区 小日向テイチ	北見市 真隆 寺	秩父市 松吉 佐和子	秩父市 松吉 佐和子
下野市 島崎 善一	狛江市 熊澤 利久	小山市 中村 宣晴	小山市 中村 宣晴
相模原市 高橋 善一	八王子市 石井 満枝	大田区 石井 健雄	大田区 石井 健雄
西東京市 高橋 武	加須市 石井 良一	館林市 多田 一雄	館林市 多田 一雄
立川市 森田 節子	相模原市 加須市 石井 良一	新宿区 小宮山ちい子	新宿区 小宮山ちい子
大月市 北辺 リエ子	相模原市 加須市 石井 良一	比企郡 杉田 征一郎	比企郡 杉田 征一郎
西多摩郡 青木 毅	川越市 倉橋 信也	比企郡 島田 雅代	比企郡 島田 雅代
あきる野市 山崎 右三	八王子市 河野 大吉	比企郡 島田 雅代	比企郡 島田 雅代
山武郡 林 一重	昭島市 河原崎 勝子	昭島市 河原崎 勝子	昭島市 河原崎 勝子
所沢市 金子 恒子	和光市 佐竹 俊幸	和光市 佐竹 俊幸	和光市 佐竹 俊幸
仙台市 早川 健司	北九州市 相良 真華	北九州市 相良 真華	北九州市 相良 真華



御前立御本尊の脇侍の大天狗制作過程、木地の状態から細部まで彩色が施されてゆく